

第4学年 道徳学習指導案

2組 計27人(男子8人,女子19人)

指導者 阿部大亮

1 主題名 ぼくがやらなければ (1-(4) 勇気)

読み物資料「おこった小吉」(学習研究社3年 一部改)

2 主題について

(1) 内容項目とその系統

【低学年1-(3)】 「よいと思うことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行く。」
【中学年1-(4)】 「正しいと思うことは、勇気をもって行く。」
【高学年1-(2)】 「より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。」

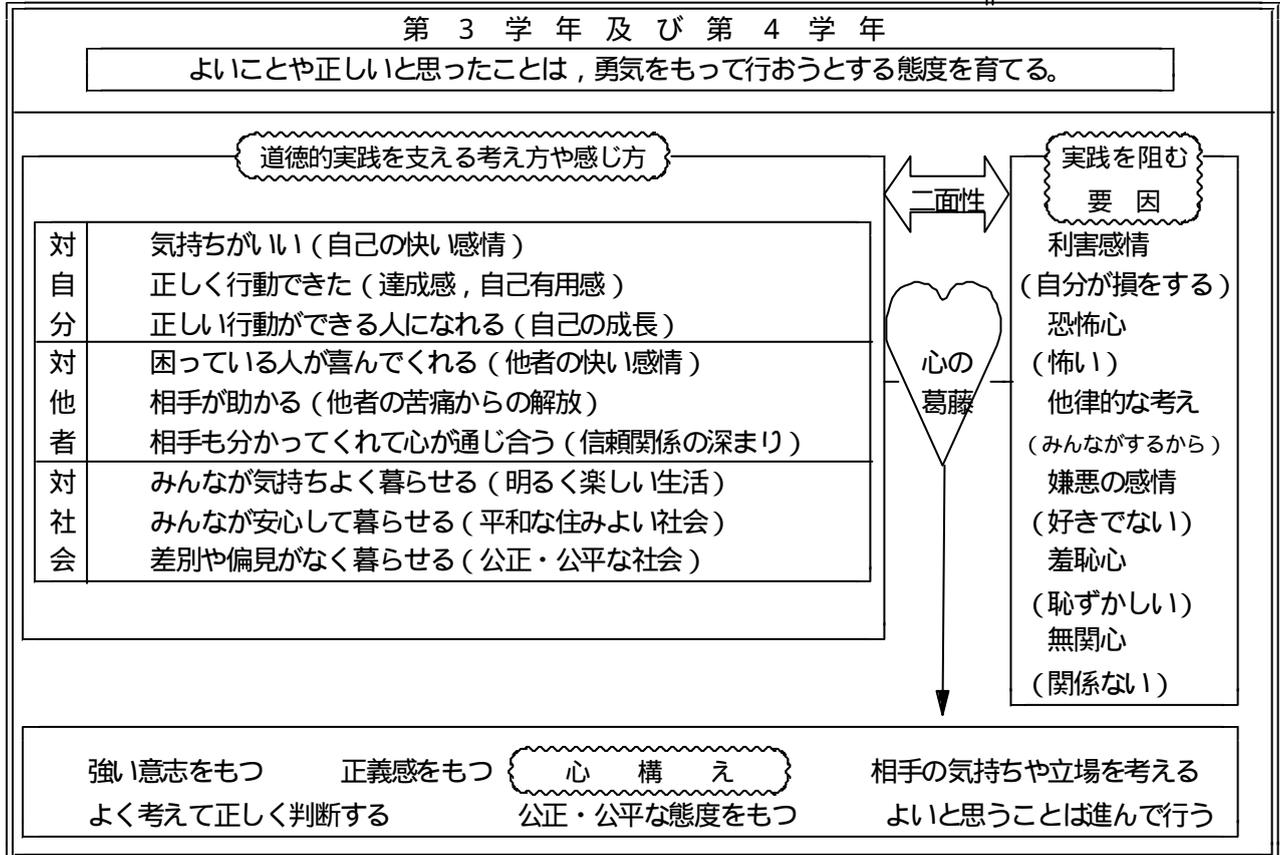
(2) 指導内容についての基本的な立場

「勇気」とは、恐怖、不安、あるいは羞恥を怖れずに、「よい」、「正しい」と信じたことを積極的に行おうとする強い気持ちである。よいことや正しいと思ったことを、勇気をもって実行しようとする態度を育てていくことは、正義感や公正さなど社会生活上のルールを守るとともに、規範意識の高い公正・公平な社会を実現するために必要である。

この期の子どもたちは、物事に対して自分なりに善悪の判断ができるようになり、自分の行動と他人の行動を比べて相対的な判断ができるようになってくる。しかしその反面、正しい判断はできるが、仲間集団が固定化されてくることから、付和雷同的な行動が多く見られたり、自分本位な考えから勇気をもって行動できなかったりすることも少なくない。

そこで、本主題では、心の弱さから勇気をもって行動することの難しさに気付くことができるようにする。また、勇気をもって行動することの大切さについて理解することができるようにするとともに、その心地よさも感じ取ることができるようにする。これらのことにより、正しいと思ったことは勇気をもって行い、正しくないことは勇気をもってやめようとする態度を育てていくことをねらいとする。

(3) 本主題の指導内容及び道徳的価値の構造



(は重点項目)

(4) 資料について

【太枠は中心場面】

場 面	資料の登場人物がもつ「魅力」			
	道徳的实践を支える考え方や感じ方	実践を阻む心の弱さ	心の弱さを乗り越えた心地よさ	道徳的实践に対する思いや願い
甲 突川沿いを歩いて いると梅太郎たちが男 の子をいじめていた。 小吉は、怖くて通りす ぎようとしたが、気になっ て立ち止まってしまう	イ あの男の子をたすけてやりた い。(共感) 「思いやり・親切,生命尊重,勇気」	ア 友だちは、ひとり、ふたりと 走っていきました。小吉もいっ しょにいこうとしました。 (共感,疑問) 「思いやり・親切,勇気」		
男の子の叫び声が小 吉の心に響いた。小吉 は梅太郎の前に出て行 き、いじめをやめるよう に進言する。	ウ 「こらっ、やめる、やめないか。」 とさけびながら梅太郎たちのほう にかけだしていた。 (憧憬・感動,共感) 「思いやり・親切,勇気」			
小吉の迫力に押され て、梅太郎たちはいじ めるのをやめる。男の子 にお礼を言われて、にこ っと笑う			エ 男の子に「お兄ちゃん、ありがと う。ありがとう。」と言われて、小 吉はにこっとわらってうなずきまし た。(憧憬・感動) 「勇気」	

3 子どもの実態

(1) 資料の登場人物がもつ「魅力」に対する子どもたちの意識 (調査人数 27人 H19.9.14)

子どもたちの意識	資料の登場人物のもつ「魅力」			
	ア	イ	ウ	エ
疑問(どうしてだろう)	5	0	0	0
共感(ああよく分かるな)	10	9	3	1
憧憬・感動(すごいな, そうなりたい)	0	1	16	13

【ア～エは、2 - (4) 資料についての表中記号と対応】

【考 察】

事前に資料を読ませて、登場人物がもつ「魅力」についてどのように感じているか調べたところ、子どもたちは主人公の小吉の心の弱さが表れる場面(ア)に共感や疑問を感じていることが分かった。ここでは、正義感から小吉の心の弱さに疑問を感じている子どもがいるものの、多くの子どもたちは、梅太郎たちに対する恐怖心や友達への同調から、助けられずにいる小吉に共感しているものと考えられる。梅太郎に声をかけた場面(ウ)、男の子からお礼を言われる場面(エ)では、多くの子どもが憧憬や感動を覚えていることが分かった。このことから子どもたちは日頃、「自分たちも困っている人を助けてあげたい。」と思っているものの、できないことが多く、そのため勇気をもって行動した小吉の態度に対して憧憬や感動を感じていると考えられる。しかしながら、どの場面も子どもたちの反応が少なかったことから、本主題の指導においては、資料の登場人物がもつ「魅力」と豊かにかかわることができるような手だてを取り入れていく必要がある。

(2) 本主題に関する子どもの実態

(調査人数 27人 重複あり H19.9.14)

(7) 本主題に関する経験場面

(イ) 本主題に関する経験の理由

勇気をもって正しい行動ができた経験	人数	勇気をもって正しい行動ができた理由	人数
・ 困っている人に声をかけた	16	・ 親切にしようと思ったから	6
・ 苦手なことに挑戦した	4	・ 相手が喜んでくれるから	6
・ 友達のけんかをとめた	3	・ 困っていたから	6
・ 友達を注意した	2	・ 自分がすっきりできるから	4
・ 食べ物を分けてあげた	1	・ みんなの役に立ちたいから	2
・ あいさつをした	1	・ その他(自信があった, 優しくしたい, 嫌な気持ちになりたくない)	各 1

(ウ) 本主題に関する経験場面

勇気をもって正しい行動ができなかった経験	人数
・ きまりを守っていない友達を止められなかった	8
・ けんかを止められなかった	4
・ 困っている人に声をかけられなかった	4
・ 意地悪をしている友達をとめられなかった	3
・ いじめられている子を助けられなかった	3
・ その他(友達に電話できなかったなど)	3
・ 無回答	2

(エ) 本主題に関する経験の理由

勇気をもって正しい行動ができなかった理由	人数
・ 怖かったから	11
・ 恥ずかしいから	6
・ 嫌われたくないから	5
・ ドキドキしたから	2
・ 不安だから	2
・ 自分もやられるから	1
・ 無回答	2

(オ) 道徳的価値の意義

勇気をもって正しい行動をすることはなぜ大切か	人数
・ 相手が喜んでくれるから	10
・ 相手が嫌な気持ちになるから	6
・ 自分が嫌な気持ちになるから	4
・ 自分が嬉しい気持ちになるから	3
・ 悔いが残らないから	2
・ その他(自分が成長しないから、自分も助けてもらえるから)	2

(カ) 道徳的価値に対する心構え

勇気をもって正しい行動をするための心構え	人数
・ 強い意志をもつ	15
・ 相手の気持ちを考える	7
・ 優しさをもつ	2
・ 冷静に考える	1
・ 弱い自分に負けない	1
・ 自信をもつ	1

【考察】

子どもたちは、ほぼ全員が勇気をもって行動できた経験をもっている。その理由として、「困っていたから」「相手が喜んでくれるから」といった他者に対する思いやりの気持ちによるものが多いことが分かった。次いで、「自分がすっきりできるから」「みんなの役に立ちたいから」といった自己の成長に関するものが多く見られた。このほか、「親切にしようと思った」という理由が多く挙げられていた。これは子どもたちが、勇気をもった行動を行うためには、親切にする気持ちをもつことが大切だと考えているからだと思われる。

しかし、その一方で、勇気をもって行動できなかった経験もほぼ全員がもっていることが分かった。その理由としては様々であるが、中でも、「怖い」「恥ずかしい」といった心の弱さに起因する理由や、「嫌われたくない」といった仲間集団の帰属にかかわる理由が多く見られた。

勇気をもって行動することの意義については、ほぼ半分の子どもたちが、「相手が喜ぶ」といった他者にかかわるものを挙げていた。これに対して「自分が嬉しい気持ちになる」といった自己の快い感情や自己の成長にかかわるものは、全体の3分の1程度であった。これらのことから、本時では、勇気をもって行動することは、相手のためだけでなく、よりよい自分の成長のために大切であることに気付かせていきたい。

4 本時

(1) 目標

よいことや正しいと思ったことは、勇気をもって行おうとする心情を高める。

(2) 指導に当たって(研究の視点との関連)

以上のような子どもの実態や主題のねらいを踏まえ、次のようなことに配慮して指導していきたい。

1 小吉が迷っている場面において、子どもたちの反応がクラスの約半数だったことから、小吉の気持ちを心情図を用いて考えることで、自分自身のこととして共感的に理解することができるようにする。
【視点1 - ア - (ウ) 1単位時間の授業設計】

2 小吉が迷っている場面を心情図を用いて、自分の色の割合を決めた根拠を発表し合い、自分とは異なる立場の子どもたちと話し合うことで、友達の多様な考えに気付くことができるようにし、友達もつ「魅力」と豊かにかかわることができるようにする。
【視点1 - イ - (イ) 話し合い活動を充実させる教具の工夫】

3 「深める」過程において、本主題にかかわる読み聞かせを聞くことで、多様な勇気に気付くことができるようにする。さらに、自分に必要な勇気を書く活動を取り入れ、発表し合うことで、いろいろな場面で勇気をもって行動していこうとする実践意欲を高めることができるようにする。

【視点1 - ウ - (イ) これまでの自分を振り返る書く活動の工夫】

過程	主な学習活動と予想される子どもの反応	教師の指導
(分) 気 付 く (5)	<p>1 勇気をもって行動できなかった経験とその理由について話し合う。</p> <p>これまでの生活の中で、正しいと思ったことを勇気をもって行動できなかったことがありますか。また、できなかった理由を教えてください。</p> <p>友達がルールを守れていなかったときに注意できなかった。嫌われるのが怖かったからだよ。</p> <p>困っている人がいて、声をかけようと思ったけど、恥ずかしくて声をかけることができなかったよ。</p> <p>勇気をもって行動するには、どんな気持ちや考えが大切だろう。</p>	<p>教師の指導</p> <p>アンケートを基にした意図的な指名を行うことで、主題に関する経験を想起できるようにする。</p> <p>話し合いを通して、意識と行動の矛盾に気づき主題への問題意識を高めることができるようにする。</p> <p>1 小吉がどうしようかと迷っている場面で、心情図を用いて自分だったらどのような心の状態になるのか考えることで、小吉の心の葛藤を共感的に理解することができるようにし、資料の登場人物がもつ「魅力」と豊かにかかわることができるようにする。</p>
見 つ め る (25)	<p>2 資料「おこった小吉」を読み、主人公の心情を中心に話し合う。</p> <p>(1) 感想を発表し合う。</p> <p>(2) 気になりながらも、助けてあげることができずに迷っている小吉の気持ちについて話し合う。</p> <p>【助ける】</p> <ul style="list-style-type: none"> 怖い。 自分がやられる。 僕がやらなくても誰かがやってくれる。 <p>【助けない】</p> <ul style="list-style-type: none"> 僕がやらないと。 助けたい。 なんとかしてあげたい。 <p>(3) 小吉が男の子を助けることができたのは、どんな気持ちや考えを大切にしたらからか考える。</p> <p>小吉は、どんな気持ちや考えを大切にしたら、声をかけることができたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 男の子を助けたい。 相手の気持ちを考える。 優しさ。 かわいそう。 <p>(4) 助けてあげた場面での小吉、男の子の気持ちを話し合う。</p> <p>【小吉】</p> <ul style="list-style-type: none"> 助けてよかった。 喜んでくれてよかった。 <p>【男の子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ありがとう。 優しい人だな。 	<p>2 心情図の色の割合を決めた根拠を発表したり、違う立場の子たちと話し合ったりすることで、友達の多様な考えに気づくことができるようにし、友達がもつ「魅力」と豊かにかかわることができるようにする。</p> <p>心情図を用いて小吉の気持ちを考えることで、全員が自分の考えをもつことができるようにする。</p> <p>道徳的実践ができた小吉の気持ちや考えを友達と交流し合うことで、互いに道徳的価値にかかわる見方、考え方や感じ方に広がりや深まりをもつことができるようにする。</p> <p>心の弱さを乗り越えた後の小吉と男の子の心情を考えることで、勇気をもって行動することの心地よさを味わうことができるようにする。</p>
深 め る ・ 高 め る (15)	<p>3 教師の読み聞かせを聞き、自分なりの勇気について考える。</p> <p>みんなにとって「勇気」とは、どんなものですか。自分なりの勇気について考えてみましょう。</p> <p>わたしは、困っている人に声をかけるという「勇気」にしました。それは緊張して声をかけることができなかったからです。</p> <p>ぼくは、悪いことをしている友達に注意する「勇気」にしました。それは、いつも友達のことが気になって注意できないからです。</p>	<p>3 本主題にかかわる本の読み聞かせを聞き、多様な勇気があることに気づき、自分に必要な勇気を書くことで、いろいろな場面で勇気をもって行動していこうとする実践意欲を高めることができるようにする。</p> <p>正しいと思ったことは勇気をもって行っていこうとする心情を高めることができたか。</p> <p>【発言、観察、ワークシート】</p>